

平成 19 年 9 月期 第 3 四半期財務・業績の概況

平成 19 年 7 月 30 日

上場会社名 株式会社ACKグループ 上場取引所 JASDAQ
 コード番号 2498 URL <http://www.ackg.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 廣谷 彰彦
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役統括管理本部長 長尾 千歳 TEL (03) 6311-6641

(百万円未満切捨て)

1. 平成 19 年 9 月期第 3 四半期の連結業績 (平成 18 年 10 月 1 日 ~ 平成 19 年 6 月 30 日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19年9月期第3四半期	14,737	—	△169	—	△121	—	△139	—
18年9月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—
18年9月期	17,167	—	501	—	517	—	106	—

	1株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
19年9月期第3四半期	△26	67	—	—
18年9月期第3四半期	—	—	—	—
18年9月期	21	60	21	33

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	%	円	銭
19年9月期第3四半期	16,228	6,060	35.7	1,026	49
18年9月期第3四半期	—	—	—	—	—
18年9月期	9,885	5,789	55.7	1,109	17

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
19年9月期第3四半期	3,064	△188	△1,092	4,217
18年9月期第3四半期	—	—	—	—
18年9月期	690	△419	△82	2,437

当社は平成 18 年 8 月 28 日に設立しており、第 3 四半期財務諸表の作成は初年度であるため、18 年 9 月期第 3 四半期の記載は省略しております。

2. 配当の状況

	1株当たり配当金	
(基準日)	第3四半期末	
19年9月期第3四半期	円	銭
18年9月期第3四半期	—	—

3. 平成19年9月期の連結業績予想 (平成18年10月1日 ~ 平成19年9月30日) 【参考】

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通 期	22,500	31.1	610	21.6	650	25.5	290	171.1	51	42

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う
特定子会社の異動) : 有
[新規 1社(社名 大成基礎設計㈱)]
- (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
- (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有

[(注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。]

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記予想数値と異なる場合があります。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期における我が国経済は、堅調な輸出、設備投資に支えられ、企業収益・雇用情勢の改善に伴い、回復基調にありました。

当社グループを取り巻く環境におきましては、引き続き公共投資関連の予算が低調である一方で、業務発注方式が従来の価格競争による入札方式から技術競争によるプロポーザル方式に一層シフトしており、技術力の強化に努めてきた当社グループにおいては望ましい環境に変化しております。

このようななかにおいて、当社グループは、平成18年8月28日付株式移転による持株会社(当社)設立後、グループ経営に重点をおき、経営計画「ACKG ONE」に基づき行動致しました。当第3四半期におきましては、平成19年3月1日付で大成基礎設計㈱が株式交換により、平成19年4月3日付で吉井システムリサーチ㈱が株式取得により、平成19年5月7日付で㈱総合環境テクノロジーが新規設立により当社の連結子会社となりました。これらの会社のグループ化により、民間分野、建設分野へ事業領域を拡大させ、公共工事に偏った事業リスクを低減させております。

また、グループ会社の保有する技術力の相互補完、販路拡大といったグループシナジーの発揮を積極的に促し、技術・人事の交流、共同開発等の施策に取り組んでおります。

これらの結果、㈱オリエンタルコンサルタンツにおいてプロポーザル方式の受注が好調であり、受注高は15,330百万円、売上高は14,737百万円となりました。利益面につきましては、売上高の計上が下期に偏る季節変動特性により営業損失は169百万円、経常損失は121百万円、四半期純損失は139百万円となりました。売上高が通期計画の65%の達成率にもかかわらず、販売費及び一般管理費は9ヵ月分計上されているためであります。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期末における総資産は16,228百万円、負債合計は10,167百万円、純資産合計は6,060百万円となりました。

当第3四半期において、連結子会社が増加したことに伴い、総資産、負債合計は大幅に増加しております。純資産合計につきましては、大成基礎設計㈱との株式交換等により、519百万円資本剰余金が増加しております。

なお、第3四半期は季節変動特性により通常赤字決算となるため、資本剰余金の増加額に比べ、純資産合計の増加額が少なくなっておりますが、通期においては、利益が計上されるため、純資産合計は増加致します。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

業績は概ね予想通りに推移しており、平成19年5月24日に公表致しました業績予想に変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

平成19年3月1日付で当社が全株式を取得したことにより、大成基礎設計㈱は当連結会計年度より連結子会社となりました。なお、みなし取得日は平成19年3月31日としております。

(2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用

影響額の僅少なものにつき、一部簡便な方法を採用しております。

(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更

当連結会計年度より法人税法の改正に伴い、平成19年4月1日以降に取得した有形固定資産については、改正法人税法に規定する償却方法により減価償却費を計上しております。

なお、この変更に伴う営業損失、経常損失及び税引前四半期純損失に与える影響は軽微であります。

5. (要約) 四半期連結財務諸表

(1) (要約) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当四半期末 〔平成19年9月期 第3四半期末〕	(参考) 前期末 (平成18年9月期末)
	金 額	金 額
(資産の部)		
I 流動資産		
現金及び預金	3,731	2,435
受取手形及び完成業務未収入金	1,546	2,008
有価証券	503	3
未成業務支出金	4,729	2,269
繰延税金資産	306	227
その他	359	181
流動資産合計	11,177	7,126
II 固定資産		
有形固定資産	2,799	1,181
無形固定資産	724	661
投資その他の資産	1,526	916
固定資産合計	5,050	2,759
資産合計	16,228	9,885
(負債の部)		
I 流動負債		
支払手形及び業務未払金	816	925
短期借入金	553	—
未払費用	567	363
未成業務受入金	5,988	1,573
その他	886	841
流動負債合計	8,813	3,703
II 固定負債		
退職給付引当金	112	134
役員退職慰労引当金	303	220
負ののれん	585	15
その他	352	21
固定負債合計	1,354	392
負債合計	10,167	4,095

科 目	当四半期末 〔平成19年9月期 第3四半期末〕	(参考) 前期末 (平成18年9月期末)
	金 額	金 額
(純資産の部)		
I 株主資本		
資本金	502	500
資本剰余金	780	261
利益剰余金	4,606	4,808
自己株式	△126	△90
株主資本合計	5,763	5,480
II 評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	26	20
評価・換算差額等合計	26	20
III 少数株主持分	271	288
純資産合計	6,060	5,789
負債純資産合計	16,228	9,885

当社は平成18年8月28日に設立しており、第3四半期財務諸表の作成は初年度であるため、平成18年9月期第3四半期の記載は省略しております。

(2) (要約) 四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当四半期 〔平成19年9月期 第3四半期〕	(参考) 前期 (平成18年9月期)
	金 額	金 額
I 売上高	14,737	17,167
II 売上原価	10,741	11,959
売上総利益	3,995	5,207
III 販売費及び一般管理費	4,165	4,706
営業利益又は営業損失	△ 169	501
IV 営業外収益	79	51
V 営業外費用	31	35
経常利益又は経常損失	△ 121	517
VI 特別利益	—	2
VII 特別損失	45	110
税金等調整前四半期純損失 又は当期純利益	△ 167	409
税金費用	△ 11	289
少数株主利益又は少数株主損失	△ 15	12
四半期純損失又は当期純利益	△ 139	106

当社は平成18年8月28日に設立しており、第3四半期財務諸表の作成は初年度であるため、平成18年9月期第3四半期の記載は省略しております。

(3) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当四半期 〔平成19年9月期 第3四半期〕	(参考) 前期 (平成18年9月期)
区 分	金 額	金 額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失 又は税金等調整前当期純利益	△167	409
減価償却費	293	394
売上債権の増(△)減額	1,336	△76
たな卸資産の増(△)減額	△1,412	△41
仕入債務の増減(△)額	△582	107
未成業務受入金の増減(△)額	3,929	△16
その他	△8	89
小 計	3,388	867
営業外収入	51	41
営業外支出	△26	△13
法人税等の支払額	△349	△204
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,064	690
II 投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△55	△164
無形固定資産の取得による支出	△74	△185
連結子会社株式取得による支出	△104	—
連結子会社株式取得による収入	61	148
その他	△15	△218
投資活動によるキャッシュ・フロー	△188	△419
III 財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の減少額	△897	—
自己株式の取得による支出	△36	△58
配当金の支払額	△60	△37
その他	△98	13
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,092	△82
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△2	△2
V 現金及び現金同等物の増加額	1,780	186
VI 現金及び現金同等物の期首残高	2,437	2,251
VII 現金及び現金同等物の期末残高	4,217	2,437

当社は平成18年8月28日に設立しており、第3四半期財務諸表の作成は初年度であるため、平成18年9月期第3四半期の記載は省略しております。